

関連学協会等との連携

連携事業：

名古屋大学「博士課程教育リーディングプログラム」

阿波賀 邦夫 名古屋大学 教授 ・ 横山 利彦 分子科学研究所 教授

昨年度、日本学術振興会「博士課程教育リーディングプログラム」の第一回公募がありました。名古屋大学の物質ならびに生命系の大学院専攻が中心となり、また分子科学研究所や基礎生物学研究所などが連携する「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」が採択されました。複合領域型（環境）というカテゴリーの申請でしたが、応募20件中4件採用という狭き門でした。この事業では、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムの創設が求められています。名大のプログラムは、最先端基礎自然科学研究の実践と

それを可能にする十分なコースワーク履修、そしてこれらと平行して実行される大学院リテラシー教育（英語研修や海外留学、スキルセミナーなど）から形成されます。大学院研究教育活動を可能な限り公表し、連携研究所や企業研究者との交流によって可視化された大学院教育を実現して、これにより学位の質を保証しようというものです。

分子研の役割は、プログラム担当者2名（横山利彦、唯美津木）を派遣して名大の教育研究に参画するとともに、共同研究推進のために名大生や博士研究員を受け入れ、また分子研での短期研修（リトリート研究所研修）を受け入れます。写真は、2012年3月3日に初めて実行されたリトリート研究所研修「錯体化学と物性科学の新しい接点



を見つめて」の一コマで、名大から11名、分子研から15名の参加があり、ミニ研究会と見学会を実施しました。参加した名大生のなかには、分子研に来たのは初めてという学生から、関連研究室に共同研究を申し込む積極性を示すものまであり、いつもとは違う研究所の雰囲気に、大変満足したようでした。

このプログラムは、基生研との連携も進めており、リトリート研究所研修を発展させ、講義までを取り込んで100名規模で名大生が参加する企画や、基生研の研究室に名大生が進学するシステムも立ち上がりつつあります。分子研の場合、どのような連携が可能かはさらに検討の余地がありますが、リーダー人材のキャリアパスにおいて、名大の教育から分子研の研究へというおおまかな道筋が確立すれば、両機関にとってWin-Winの連携が構築できるものと思われます。

